

能楽殿

お面と衣装、大変洗練された動きを使い、伝統的な物語に基づいた演劇と舞いによっておこなわれる能の舞台です。舞台裏の壁に描かれた松の木は、すべての能舞台の典型的特徴です。松は長寿の象徴であり、神々は能の演劇が行われている間にこれらの絵の中に宿ると信じられています。神社の娯楽の形式として、多くの場合祈りの後に、神社で能を披露する長い伝統があります。

能は、14 世紀から上演されており、最初は観阿弥清次（1333–1384）と息子の世阿弥元清(c. 1363–c. 1443)によって開発されました。江戸時代初期（1603～1867 年）に最初に舞台が建てられました。現在の舞台は、1853 年に仙台の伊達政宗によって建てられたもので、全体が日本檜でできています。明治天皇（1852～1912 年）は、1876 年にここで能を観賞しました。